

目標及び評価規準の設定ポイント

㊦ 知識及び技能

㊧ 知識・技能

第1章

教科別の指導

目標の設定	評価規準の内容に取り入れるポイント	
各教科の 目標及び内容	知識	① 学習活動、学習場面、学習状況等 ② 学習対象などと身に付けてほしい知識 ③ 児童生徒の状態 （具体的な児童生徒の姿「気付いている、分かっている、知っている、理解している」）
	技能	① 学習活動、学習場面、学習状況等 ② 身に付けてほしい技能（器用に、素早く、ずっと、いつも、いつでも 等） ③ 児童生徒の行為 （具体的な児童生徒の姿「身に付けている、表している など」）

評価規準設定例（知識）

- 生活 ①遊具で遊ぶ活動において、②滑り台で遊ぶときは、順番があることを③理解している。
 （小学部 2段階エ遊び(イ)）
- 国語 ①友達からものを受け取る活動を通して、②「ありがとう」は、感謝の気持ちを表していることに③気付いている。
 （小学部 2段階ア言葉の特徴や使い方(ア)）
- 社会 ①地域の安全を守る仕事には、警察や消防署などがあり、②地域の人々と協力していることが③分かっている。
 （中学部 1段階ウ地域の安全(ア)㊦）

評価規準設定例（技能）

- 国語 ①挨拶の仕方の学習において、②いつも口の大きさに気を付けて、③話している。
 （小学部 3段階ア言葉の特徴や使い方(イ)）
- 音楽 ①合奏において、②音楽を感じながら安定して、③ハンドベルを演奏（鳴ら）している。
 （小学部 1段階A表現ア音楽遊び(ウ)㊦）
- 職業 ①情報機器の活用に関する学習において、②ローマ字表を見ながら、③キーボード入力をしている。
 （中学部 2段階B情報機器の活用ア）

音楽の技能の評価規準については、小学校の学習指導要領を基に設定する場合、「A表現」の文末は「歌っている」「演奏している」「音楽をつくっている」より選択して作成する。なお、「B鑑賞」の題材においては設定しない。

〔参考〕学習評価に関する参考資料、文部科学省「特別支援学校小学部・中学部学習評価参考資料」

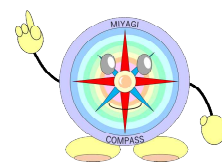
第2章（教科別の指導）

第2章（各教科等を合わせた指導）

第3章

教科別の評価規準について

知識は、
「児童生徒の気付いている（分かっている、知っている）状態」
 を考えます。
 技能は、
「習得した（習得している）知識を使って、何かをしている状態」
 を考えます。



各教科等を合わせた指導

目標の内容に取り入れるポイント	
知識及び技能	① 学習活動，学習場面，学習状況など ② 児童生徒に身に付く「知識及び技能」 （～ができる。分かる。理解する。身に付ける。できるようにする。等）



評価規準の設定
設定した単元（題材）の目標を達成した具体的な姿（目標と評価規準が同じになることもある）

目標設定例（知識及び技能）

- 日常生活の指導 ①朝の挨拶をする場面において、②相手の目を見て挨拶することができる。
 （小学部「朝の会」）
- 遊びの指導 ①紙で遊ぶ活動において、いろいろな紙を使った②遊び方が分かる。
 （小学部「さわって遊ぼう」）
- 生活単元学習 ①友達や教師，教室などの②新しい環境を理解し、②環境になじむことができる。
 （小学部「みんな友達」）
- 作業学習 ①木工の作業において、②自分の役割を理解するとともに、②道具の使い方を身に付ける。
 （中学部「木工作業」）

各教科等を合わせた指導について

知識面は、
「児童生徒に身に付けてほしい知識（「できる」「分かる」「理解する」）は何か」
 を考えます。
 技能面は、
「児童生徒に身に付けてほしい技能（「器用に～する（できる）」「素早く～する（できる）」「ずっと～する（できる）」「いつも～する（できる）」「いつでも～する（できる）」など）」は何か」
 を考えます。

